

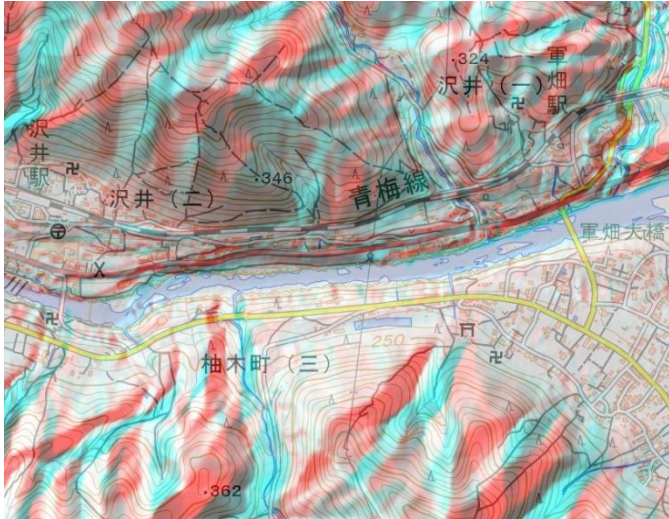
「日々の理科」(第2671号) 2021, 11, -5
「アナグリフ多摩川源流への旅(9)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

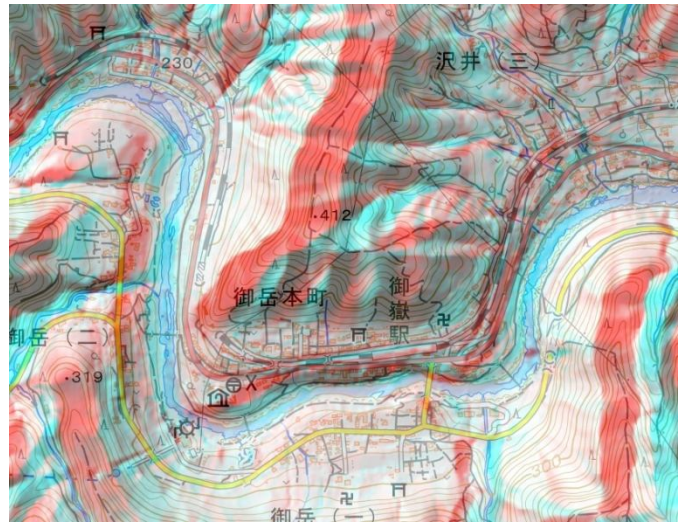
多摩川本流は、青梅よりも先(源流側)は、急に「上流」の景観になる。通常地形図で見てもわかるが、アナグリフ(3D画像)で見ると、地形の起伏…特に上流独特のV字谷の様子がよくわかる。



このあたりまでくると、アナグリフ画像独特の赤と青の色分けの画像になってくる。多摩川本流がつくった深い谷の右岸左岸の非常に狭い平地に、へばりつくように国道(青梅街道)、都道、青梅線、集落などが集まっているのがわかる。



航空写真で見ると、多摩川の左岸(画面の上方)に「沢井」の集落が集まっているのがわかる。この中に郵便局、交番などの公共施設もある。こんな山の中でも青梅線の駅を中心に集落が発達しているのが、いかにも日本らしい。



図は青梅線御嶽駅付近のアナグリフ画像である。東京都にありながら、よくこんな急峻な山間部に鉄道を敷設したと思う。青梅～終点奥多摩間は、「東京アドベンチャーライン」という愛称で呼ばれている。青梅線は当初旅客輸送よりも、鉾石(石灰岩)輸送が重要だったようだ。平成10年までは、石灰岩を満載した貨物列車が走っていたが、現在は全廃されて、旅客電車だけの運行となっている。通勤時間帯と土日のハイキング客向けに、奥多摩駅～東京駅の間、御嶽駅～東京駅間の直通電車も運行されている。



航空写真で見ても、この「御嶽蛇行」はすばらしい。青梅線を御嶽駅を降り立った人は、駅前の橋を渡ると、多摩川の本流に橋がかかっている。その橋からの多摩川の渓谷美は見事だ。とくに晩秋がすばらしい。この橋のたもとからは、多摩川の川原に降りられる。

もう15年以上前に、私は4年生の遠足で御嶽に連れて来たことがある。御嶽駅で電車を降り、一つ立川寄りの「沢井駅」まで川原や川原沿いの道を歩いた。沢井の川原で遊んで、スケッチをしたり、石を拾ったりと、とても楽しかった記憶がある。